

市議会が総意で中川市長に辞職要求



市議会は14日、「まずい米」発言で全国に知れ渡った中川市長に辞職を求めました。

この日の午前、市議会は各派代表者会議を開き、失言を続ける中川市長に対して辞職を求める申し入れをすることを全会一致で決めました。これを受けて渡邊議長と近藤副議長が午後から市長に申し入れを行いました。

渡邊議長が読み上げた申し入れ書では、たびたび失言をしている市長について、「市議会から厳重な抗議や辞職勧告決議を受けたにもかかわらず、再び同様の失言をし、市議会としては看過できない深刻な事態」をまねいた、「この度の失言では、他自治体の住民の気持ちを傷つけ、自治体間の関係等においても由々しき事態を生じさせており、更に、市のイメージを大きく損ねた」として、「その責任は極めて重い」とのべ辞職を求めました。

これに対して市長は、「私の不適切発言により、市民、市議会のみならず、ご迷惑をおかけし、お詫び申し上げます。市政、上越市全体にたいして非常に信頼を損なったことは間違いなく、信頼回復に努めていきたい」と、7月中旬に三田市を直接訪れ、三田市、および関係者のみなさんにお詫びし、信頼回復のために誠心誠意取り組んでいきたい」とのべました。

市長は、辞職を求められたにもかかわらず、辞職については一切触れませんでした。「まずは三田市に行きお詫びし、その後、辞職する」とどうして言えなかったのでしょうか。ずるずると決断を先延ばしすることは許されません。

イラストは同日の午前に行われた各派代表者会議の様子です。



【キョウチクトウ】
キョウチクトウ科の常緑低木。漢字で「夾竹桃」と書きます。高さは数メートルにもなります。葉は細く、竹のようにも見えます。有毒植物。花期は6月から9月頃。花は5つに分かれ、プロペラのような形になります。色は淡紅色が普通ですが、紅色、黄色、白色など多数。花言葉は「油断大敵」「危険な愛」。吉川区小苗代にて10日、撮影しました。



ガス水道局が渇水対策本部を設置

上越市ガス水道局は15日、渇水対策本部を設置し、高田、諏訪、和田などの地域を対象に40%以上の節水を要請していくことにしました。

これに先立ち、市議会農政建設常任委員会は同日、正善寺ダムなどの視察を実施し、正善寺ダムの貯水状況などについてガス水道局から説明を受けました。

それによると、正善寺ダムの水位は、14日現在、満水時の水位よりも10センチほど低い78・6センチになっていて、約25日分の水量しかないとのこと（下の写真）。こうした状況を受け、先に崩落し

た水圧鉄管から小城沢に後谷ダムの水を放流することにしていましたが、崩落土砂が予想よりも多く、水の濁りもひどいことから城山浄水場での取水もできていないとのことでした。

今回、節水を要請する範囲は、城山浄水場及び正善寺浄水場の配水エリア（約4万6500戸）です。

ちなみに柿崎ダムは満水で、節水の必要はないとのことでした。



足環装着後5日目。母親の仕事の様子をじっくり見るコウノトリのヒナ。三和区にて14日、撮影しました。

右のイラストはガス水道局による市議会への説明の様子です。

はしづめ法一の活動レポート

No.2212 2025.7.19

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3627

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznysg_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い 第八五九回 「でんぐ」

戸数こそ激減したものの、そこに生きる人たちの姿はすがすがしい。久しぶりに、わがふるさと尾神へ行き、元気をもらってきました。

先週の土曜日でした。まずは「おおや」（屋号）を訪ね、玄関で、「こめんくささい、いなたかね」と声をかけました。返事がありませんでしたので、家の周りを探しましたが、オレンジ色の花を咲かせているオニユリが目に入っただけで、ミチ子さんの姿はありません。おかしいな思いつつも、他の家に行くことにしました。帰りにもう一度寄りつと思ったのです。

続いて公民館の上にある「たかわら」（屋号）に行きましたが、玄関の力ギがかかっていました。買物にでも出ておられたのでしょうか。

三軒目に訪ねたのは「うわひがし」（屋号）です。大きな声で、「ほーせ（わが家の屋号）です。いなたかひがし」と言うのと、奥の部屋から松子さんが出て来てくださった。

松子さんとは大雪の時以来の再会です。水曜日は河沢の叔母とサロンで一緒になるとか。吉川区内の郵便局に勤めている松子さんの娘さんが、叔母に「おまん、尾神の人だろね。お父さんに似ている」と言われたことなどを話してくださいました。

話をしている時、ふと目にした七夕飾りも見せてもらいました。「ばあちゃんの痛いところがなくりますように」「いつまでも元気で」と短冊には書いてあります。そして、この庭でもオニユリの花が咲いていました。

丁寧に見送ってもらい、再び「おおや」へ。松子さんから、「たぶん、家の近くの道下にある畑にいなるわね」と言われていましたので、車を止めて道下を見ると、松子さんの言われた通りでした。ミチ子さんの後ろ姿が見えました。それにしても、こ

の暑い日に頑張っているものだと思います、畑まで下りていきました。

ミチ子さんは私の父より三歳下でしたから九五歳。でも背筋をスツと伸ばして、とても九〇代半ばには見えません。ジャガイモ掘りをしている姿は七〇代のお母さんです。「えらいもんだねえ」そう言って挨拶すると、ミチ子さんは、「なしてね、でんぐ」と言われた。私たちがどこで使っていた方言で、「でんぐ」という意味です。

でも「でんぐ」ところか、この畑は本格的です。ジャガイモが植えられていた畑には、トウモロコシ、ネギ、地ばい瓜、ナス、トマト、サトイモなどもありました。面積は二畝（二アール）ほど、作れるものはみんな作っているといった感じでした。

「おうちのばあちゃん、畑仕事は九三歳までだったね。えらいもんだ」と重ねて言うのと、ミチ子さんは、「三歳頃まではいつ死んでもおかしくないほど体が弱かった。」

（医者の方）布施さんにはずいぶんお世話になったわね」と子どもの頃のことを話してくださいました。でも、いまの姿からはとても想像できません。どこから見ても健康体といった格好をしてもらえるからです。

改めて畑を見渡して思ったのは、作るのが難しいトマトなどの作物が立派に育てられているということ。雑草はほとんどなく、しっかり管理されていました。これは毎日、丁寧に見守っていないと実現できません。そのことを言うのと、「畑は生きがいだ」という言葉が返ってきました。

ミチ子さんの畑を訪ねたのは午後四時半頃でした。帰り際に、「ジャガイモ、持っていってくんない」と言われたので、遠慮せず五個ももらってきました。ジャガイモは松子さんにも分けたそうです。お互いに助け合い、元気にしておられる、そのことを聞いてうれしくなりました。

『明彩会』の作品展、今年も賑やかに開催

頸北地域の絵画サークル、『明彩会』の作品展を11日、観てきました。

会場は頸城区上増田の公民館。展示された作品は野の花や身近な風景を描いたものが多く、とても親しみを感じました。

作品を観ていたら、一人の方が、「コウノトリの方ですよね」と声をかけてくださいました。吉川区片田出身で頸城区在住の方でした。この方のお母さんは私の中

学時代の恩師でしたので話が弾みました。そしていま一人、柿崎区在住の方からは、「毎回、議会報告を楽しみにしています。絵がいいですね」と声をかけてくださいました。

会場では、作者の方、作品を鑑賞するためにこられた人など数人でおしゃべりし、楽しい時間を過ごしました。『コウノトリさん、ありがとね』の歌も聴いていただきました。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における 空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016～0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	7月9日(水)	7月15日(火)
上越消防署	0.057	0.050
上越南消防署	0.047	0.040
新井消防署	0.050	0.050
頸北消防署	0.057	0.057
頸南消防署	0.063	0.067
東頸消防署	0.040	0.057
名立分遣所	0.060	0.060
高士分遣所	0.053	0.053

